

前田元敏と『英和對譯大辭彙』

村 端 五 郎

要 旨

本論の目的は、前田元敏訳述『英和對譯大辭彙』（明治18年）及び『訂正増補 英和對譯大辭彙』（明治19年）を量・質の両面から、その特長を明らかにすることである。前田大辭彙は、同時代の他の多くの辭書がそうであったようにノリとハサミの抜き取りによって刊行された「偽裝辭書」の1つとして見なされ、これまで本格的な調査の対象となることはなかった。前田大辭彙が依拠したとされる柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』（明治15年）などとの量的・質的な比較を行った結果、前田大辭彙は、見出し語に大きな差異があることや例句・例文を多数採用していることをはじめ、6つの特長が明らかになった。これらの特長は、前田大辭彙が柴田・子安字彙の単なる「偽裝辭書」ではないこと、そして、わが国の英和辭書が「英和対訳辭書」から「百科事典的英和辭書」へと変化する起点であった可能性を示すものであると指摘した。今後の追調査で、この英語辭書史に新たな1ページを加えうる可能性をさらに検証していく必要があると結んだ。

1. はじめに

前田元敏は、佐久間信恭や武信由太郎、南日恒太郎、細川文五郎らとともに、明治大正期の英学界、英語教育界を代表する1人であった。前田はことに英語に優れていたと伝えられる¹。風雲急を上げる幕末の土佐に生まれ、維新直後の開明の流れにいち早く身をおき、藩校や私立英学校において、その英学の基礎を築いた。17歳で青雲の志を抱いて上京し、後に名を成す才人らとともに、わが国近代化の牽引役であった官立学校において学才を磨いた。その後、前田元敏は教師の道を選び、県立・官立・私立の中等学校において優秀な人材を育てる一方、その高い英語力と学識を活かして、若干28歳の若さで本格的な英和辭書を訳述刊行した。このような業績を遺しながら、これまで前田元敏の人物像や業績については、ほとんど明らかにされていない。

本論の目的は、前田元敏の業績の中でも特筆すべき訳述書『英和對譯大辭彙』（以後、

¹ 豊田実、昭和14年、p. 79.

前田大辭彙)を量・質の両面から検討して、その特長を明らかにすることである。まず第2節では、前田元敏の人物像を明らかにするため、彼の出自と経歴、業績を概説する。つづく第3節では、前田大辭彙の書誌的考察を行ったうえで、同時代の辞書にはあまり見られない前田大辭彙の特長を明らかにして、その英学史的な意義を検討する。

2. 前田元敏

2.1 前田元敏の出自

前田元敏は、代々武芸に通じる土佐前田家の嫡男として、安政4(1857)年5月に高知城下(現高知市廿代町)で呱呱の声をあげた。前田家に伝わる系図によると²、初代は前田利國(生没年不詳)で、生国は山城国(現京都府南部)である。応仁の乱の戦火をさけて京都南部に逃れ、土豪に荒らされた荘園を守ろうとして幡多荘に入った一条氏³の縁の地である土佐に前田利國は入国した。2代の平兵衛利益(生没年不詳)は、四国の覇者・長宗我部元親に仕え、引田(讃岐)の合戦で弟と協力して敵幹部の仙石勘解由を討ち取る大手柄をあげて長宗我部氏の四国平定に貢献した⁴。また、3代前田源十郎利春は、長宗我部元親の嫡男信親に仕えたが、不幸にも戸次川(九州豊後国)の合戦で主君信親とともに19歳の若さで討死した⁵。

前田利春が早世したため、4代目として跡目を継いだのが弟の前田彦九郎(後次郎右衛門)家勝(元龜3(1572)年～正保元(1644)年)である。家勝は、長宗我部元親の家臣団の一員として、朝鮮の役や小田原の陣に参戦した。しかし、関ヶ原の合戦で長宗我部氏がついた西軍が敗れて長宗我部氏は改易となり、その後、元親の跡目を継いだ盛親が大阪の陣で再び徳川側に敗れ、ついに京で討たれたため、前田家勝も一時は武家の道から退き潜伏せざるを得なかった⁶。

家勝の嫡男の5代前田元庵(生没年不詳)は医業に従事した。その後6代七右衛門利宗(寛永14(1637)年～享保10(1725)年)は長宗我部氏にかわって土佐を治めた領主山内氏の家老野々村迅清に、7代素平次宗貞(寛文9年(1669)年～享保17(1731)年)



晩年の前田元敏(東京・郁文館夢学園蔵)

2 この系図は、慶応2年8月、前田元敏の祖父の前田楠次郎及が留守居組に取り立てられる際に藩に提出したものである。この系図は、東京在住で前田元敏の孫にあたる前田博氏の提供による。

3 山本大、平成8年、p. 68。

4 泉淳、平成6年、p. 149。

5 高知市・若宮八幡宮に所蔵の戸次川合戦の戦死者の霊版に「前田源十郎」の名が刻まれている。

6 前田家勝の墓は、高知市布師田西谷に現存する。

は同家老深尾内匠にそれぞれ召し出され、前田家は再び武家筋となった。以後、徳川幕府が崩壊し、武家社会が終焉するまで累代山内氏の家臣に加わった。

長宗我部時代からの在郷の武士は、山内一豊とともに入国した譜代の家臣（上士格）と地侍として区別された⁷。その地侍の中でも功勞のあった者に白札格が与えられたが、8代宗右衛門利壽（元禄13（1700）年～寛政7（1794）年）⁸は、その白札格に、9代平兵衛門元實（宝暦10（1760）年～嘉永元（1848）年）を経て、10代楠次郎及（寛政11（1798）年～明治4（1871）年）にいたっては上士格の留守居組に取り立てられている。また、元敏の祖父前田楠次郎及は、父元實、嫡男元幸（元敏の父）とともに土佐を代表する歌詠みとして名を成した⁹。さらに元敏の父元幸は、土佐藩・藩校致道館の槍術師範役を務めていたと伝えられる。このように、前田家が在郷の武士でありながら破格の上士格に任じられたのは、文武両道に通じ、武士としての品格を存分にそなえた武家であったからと考えられる。

かつての教え子が、前田元敏先生は、教場で生徒に対する時は内に春風の温を湛え、外に秋霜の厳をもって、循々として倦まざる熱誠に至っては古武士のような風格があったと語っている¹⁰。このような元敏の風格と常に丹然とした和服姿で礼儀正しい姿は、真に上述したような土佐武家筋をもつ前田家の流れを映し出していたものと言える。

2.2 前田元敏の経歴

前田元敏が初めて英学を学んだのは明治5年、土佐藩・藩校致道館¹¹であった。当時はまだ英和辞書も簡単には入手できなかった時代である。Websterの*The Elementary Spelling Book*などの初歩的な教科書を使って学んでいたとしても理解は容易なものではなかったに違いない。その後、新政府のもとで学校制度が目紛しく変わり¹²、公立の学校も姿を消したこともあり、前田は、私立共立学舎英語学校¹³で英学を続けることに

7 山本同上、pp. 99-100.

8 利壽の墓は高知市東秦泉寺に現存する。元敏の父で11代の元幸までの累代の墓は同じ墓所にある。

9 若尾葎屋、昭和55年、p. 49, p. 56.

10 坂口久子、昭和26年、p. 46.

11 致道館は、宝暦10年（1760）設立の藩校教授館の後身で、文久2年（1862）4月に開館の文武館が慶応元年（1865）に致道館と改称されたものである。洋学教授は細川潤次郎（土佐藩出身の洋学者で、貴族院副議長、神宮皇学館教監、学習院長心得などを歴任した。中濱萬次郎とも親交があった。民部省時代には、米農務省のケブロンを進言をうけて大量の果実の苗木を輸入した。その中に、「苹果」すなわちAppleの苗木も含まれていた。国産の和林木と区別するために使われた「苹果」をAppleの訳語にあてるべきと主張したのが土佐出身の植物学者の牧野富太郎で、そのApple果木そのものを国内に持ち込んだのはやはり土佐出身の細川潤次郎であった。詳しくは村端五郎「Apple - その『実』と『名称』をめぐって -」『国際社会文化研究』第7号、高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科、平成18年、pp. 105-128を参照されたい。）であった。

12 開成館の開館（致道館の洋学課を訳局に移設）、開成館の寅賓館への改称、吸江病院附属英語学校の開校、致道館の廃止とともに吸江病院英語学校と寅賓館との合併、そして私立共立学校の開校、共立学舎（英語学校併設）と改称という道を進む。

13 土佐・共立学校は、明治5年（1872）7月に設立された。明治6年（1873）4月に文部省『外国語学校教則』（4月制定）に準じて共立学舎英語学校（西弘小路、現城西公園武道館）と改称された。廃藩置県に伴う藩校致道館の廃止と同時に寅賓館（訳局）と吸江英語学校を合併して外国語学校の維持を図ったものである。英学修業では、マイヤーを含む2人の英国人教師と5人の日本人教師が英学を教授した。明治7年（1874）1月に廃止され、旧藩教育機関は事実上消滅した。その後、英語学校の流れは、自由民権運動の原動力となった私立の立志学舎や共立学校への引き継がれることになる。

なる。その後、末延道成や千頭清臣らとともに、東京大学在學生に対する学費月額2円を支給を受ける官費の貸費生として上京し、東京外国語学校やその後身の東京英語学校、東京開成学校に学んだ¹⁴。東京開成学校では、授業はすべて英語で行われていたから、学問的にも語学的にも相当鍛えられたに違いない。前田元敏の英語力の高さはそこに原点があるといってもよいであろう。

豊田実によると、前田は、新渡戸稲造と開拓使・札幌農学校の同窓であるとしているが¹⁵、それは正しくない。札幌農学校の入学者名簿及び在籍の記録からは前田の入学と在籍は確認できないうえ、現存する前田元敏直筆の職員履歴書¹⁶にもそのような項は見えない。前田が新渡戸稲造や内村鑑三らと机を並べて英学を修めたとすれば、それは東京外国語学校、あるいは東京英語学校でのことであろう。

その後、前田は東京大学予備門全科を終了し、東京大学理学部に入学して採鉱冶金学を専攻した。東京大学理学部の1年生は全員が諸学科に所属し、2年生から各学生の選択により学科の分属が決まっていた。明治11年の『東京大学法理文学部一覽略』の理学部諸学科1年生の18名及び明治13年の同一覧の採鉱冶金学4年生の3名の中に前田元敏の名前がみえる¹⁷。

このように東京大学で学修を進めていた前田であるが、卒業を目前にしながらか病のためやむなく退学、帰郷することとなった。彼自身、大学を卒業しなかったことはそれほど後悔はしていなかったようである¹⁸。自らの学力と才能に相当の自信があったためと考えられる。帰郷後は、その抜群の英語力と数学・博物学の知識が認められ、校長よりも高給(校長10円、前田12円)で私立高知共立学校(現土佐女子高等学校)の首席教員に任じられた¹⁹。これを振り出しに高知中学校(現高知県立追手前高等学校)や(官立)熊本第五高等学校(現熊本大学)²⁰、(官立)鹿児島高等中学造士館(英語科主

14 明治8(1875)年9月22日の『東京日日新聞』が伝える東京開成学校入学試験合格者38名の中に前田元敏の名がみえる(成績順で第17番)。

15 豊田同上、p.79。

16 現高知県立追手前高等学校(旧高知中学校、旧高知県尋常中学校)所蔵で、明治16年に学校に提出されたものである。

17 東京大学法理文学部『東京大学法理文学部一覽略』

18 坂口同上、p.45。

19 土佐女子高等学校、平成4年

20 熊本第五高等学校は、明治19年に開校した。第一高等学校長の野村彦四郎を初代校長に迎えた。前田元敏は英語と博物学と数学を担当した。前田は明治21年暮れに五高に赴任したが、翌年、新校舎の落成直後の明治22年7月に大地震が熊本を襲った。幸いにも校舎にほとんど被害はなかった。その地震の際に、学校に駆付けた職員を記した何い(現熊本大学構内の五高記念館所蔵)の中に前田元敏の名前がある。五高に対する前田元敏の意気込みが感じられて興味深い。

21 五高時代の前田の動静を記す記録は少ない。五高の同窓会誌『龍南會雜誌』の第200号(大正15年12月25号)に在学中は同誌の編集部委員をしていた江口俊博氏が回想談を寄せている。その中で江口氏は前田との想い出を次のように綴っている。「(前略)尚最後に是非語らなくちやならぬことは行軍である、此行軍に於て本校の精神が発揮され同時に長養された事は決して少くなかつた、ソウシテ當時の吾々が如何に此年々の行軍を待ち集れたかも今の楽しみ多い文化青年達の夢想も出来ない事と思ふ、第一回の行軍と云つたら三角行軍であつたと思ふ初めて本校の宿泊旅行に行つた僕には實に魂が急に目を醒ました感じがした、三角港の清い海水其海岸に於て發見する種々の動植物、植物と思つて採つた一物がソノソ歩き出した杯何とも言へない知識の目醒めを感じた、十幾艘がの小舟を従へて港内を悠遊し前田元敏と云ふ先生が岩石の説明をさてサレドストーンサレドストーンと教えられ雨ですネ風ですネ霜ですネと其腐蝕崩壊を説明されたことを思ひ起すとは今尚昨の如しである其前田先生が小舟で追ひ廻して遂に小鷹の一羽を鐵砲で打ち落された光景杯僕等には何と云ふ活々した面白さであつたか(後略)(pp. 36-37) 前田元敏の博物学者としての一面が窺える。

任、現鹿児島大学)、岐阜県尋常中学校大垣分校(初代校長、現岐阜県立大垣北高等学校)²²、日本中学校(教頭、現日本学園中学校)、郁文館中学校(教諭兼教頭、現郁文館夢学園)、東京同文書院(教頭)など、日本各地の中等・高等学校の教壇に立ち、第27代内閣総理大臣・濱口雄幸を始め、駐米大使・斎藤博、明治の文豪・大町桂月らを育てた。前田元敏は、昭和2(1927)年1月24日、郁文館中学校教頭在職中に病のため没した。享年70歳であった。開校以来例を見ない学校葬で送られた²³。前田元敏が果たした役割がいかに大きかったかが窺える。

友人や教え子等によると、前田元敏は海外留学の経験がないにも関わらず、時事英語や実用英語に長じていたという²⁴。晩年、文部省の文書翻訳を依頼されたことがあるが、Webster大辞典を傍らにおいて和英辞書を引くことなく、下書きもせずですらすらと訳すほどの英語の達人であったという。英文学では、ShakespeareよりもMiltonを評価し、Sir Walter Scottの*The Lady of the Lake*を称賛していた。しかし、前田の本領は文学より語学にあったと言われている²⁵。

明治の終わり頃、前田元敏は、日本中学校に私立東京英語学校を創立している。この英語学校の規模やカリキュラム等の子細については不明であるが、井上十吉や武信由太郎、齋藤祥三郎、佐久間信恭など、わが国の英学界を代表する錚々たる学者が招聘されていたというから、前田の交友の広さと深さ、そして、英語教育にかける並々ならぬ意気込みが感じられる²⁶。

2.3 前田元敏の業績

前田元敏の遺した業績の中で特筆すべきは、鹿鳴館時代の英和辞書にふさわしい『英和對譯大辭彙』(大阪同志出版社、明治18年)と『訂正増補 英和對譯大辭彙』(同社、明治19年)である。また、前田元敏は、明治中期までの英語教科書は、いわゆる舶来本やそれらの翻刻本が中心であったが、日本人の手になる日本人英学生のための本格的な英語教科書を目指して*Kambe's English Readers; the First Reader, the Second Reader, the Third Reader, the Fourth Reader, the Fifth Reader*(神戸書店、明治29年)を西村貞と共編著で刊行している。*The First Reader*の全部と*The Second Reader*の大部分は特に日本学生向けに起草し、*The Third Reader*以上は上野図書館(後の国立国会図書館上野分館、現国際子ども図書館)のありとあらゆる外国語読本類から抜粋して編纂した²⁷。教材の配列、編纂の体裁等は最もよく時代の要求に適応していたので、当時これに匹敵す

22 岐阜県尋常中学校大垣分校の初代校長となった前田元敏は、開校式にあたり「近來の書生の交際は信義に乏しきが如し、即ち都合好ければ合し都合悪るれば離るゝ傾きあり、此の如きは教育を受くるもの大に注意すべき所也」(澤田武・「大垣尋常中学校」『樂城大垣青年會誌』明治27年)と入学生に一言申し述べている。学問修業にも人間的な交わりを重んじる前田の人となりを窺い知ることができる。

23 郁文館学園九十年史編集委員会、昭和53年、p.32。

24 坂口同上、p.53。

25 同上、p.53。

26 大村喜吉・高梨健吉・出来成訓、昭和55年、p.188。

27 藪田鶴代「英語教科書の変遷」藪田鶴代他『英文学の映像』光葉会、昭和15年、p.50。

べきものではなく、全国に普及したとされている²⁸。さらに、同郷の川田正徴との共編書 *Nesfield's Idiom and Grammar - Abridged and Adapted for Japanese Students*. (金港堂、明治31年)もある。当時のベストセラー英文法書を日本人初学英语学生のために簡略化したものである。

また、前田は、日本人・日本文化の今昔を海外に広く伝える目的で、英文週刊誌 *The Far East* (編者兼発行人は、英国人ジャーナリストの John N. Penlington) に、大正元(1912)年11月2日(第2巻第10号[第36号])から翌年の3月8日(第2巻第27号[第53号])までの18週にわたって英文随筆を投稿している。各篇は2~7題目の短編随筆からなり、総数は75題目にも及ぶ。彼の英語力をよく反映して、流暢で良質の英文で綴られている²⁹。

その他の業績を含めて、これまで確認されている前田元敏の業績を以下に示す。

(前田元敏の業績[訳書・訳編書・編書]及び書誌情報)

- 1) 前田元敏譯『ブラウン英文典 詳文 解法 獨案内』ブラウン氏著、大阪同志出版舎蔵版、出版年不詳、紙数五百ページ・西洋綴美製本・定価金貳円・全一冊(前田元敏譯『プライマー獨案内』ウエルソン氏、大阪同志出版舎蔵版、明治18年、奥付の大阪同志出版舎広告目録)(未見)
- 2) 前田元敏譯述『英和對譯大辭彙』大阪同志出版社、明治18年7月[扉]、西洋綴美製本、背部羊皮クロス仕立金文字入、寸法豎一尺巾六寸二分、紙数一千ページ余字数八万言余一ページ四十段二行、定価七円五十錢[前田元敏譯『プライマー獨案内』ウエルソン氏、大阪同志出版舎蔵版、明治18年8月刊の出版目録]、1029p (A410, B619)、28cm
- 3) 前田元敏譯『プライマー獨案内』ウエルソン氏、大阪同志出版舎蔵版、明治18年8月、紙数八十五ページ・西洋美製本・定価金三拾五錢・全一冊、80p、18cm
- 4) 前田元敏訂正増補・纂述『訂正増補 英和對譯大辭彙』大阪同志出版社、明治19年4月、西洋綴美製本、背羊皮クロス仕立金文字入、寸法豎一尺巾六寸二分、紙数一千ページ余字数八万言余一ページ四十段二行、定価七円五十錢 1083p (A464, B619)、28cm [『朝野新聞』明治十九年五月廿三日の広告、出版主花井卯助氏の依頼に応じ五百部限非常廉価三圓五拾錢にて取次販売を乞う、博聞本社・同大阪分社]
- 5) 前田元敏・西村貞共編 *Kambe's Readers [The First Reader, The Second Reader, The Third Reader, The Fourth Reader, The Fifth Reader]*. 文部省検定済、[奥付、著者兼発行者・神戸直吉]神戸書店、明治29年11月、定価金拾八錢、73p、19cm
- 6) 前田元敏發行兼編輯人・大塚恭齋序『ほととぎす』非売品、明治32年5月、和綴本、365首所収、父・元幸の没後にその霊を慰めるために編んだ歌集、15丁、22cm

²⁸ 同上、p. 50.

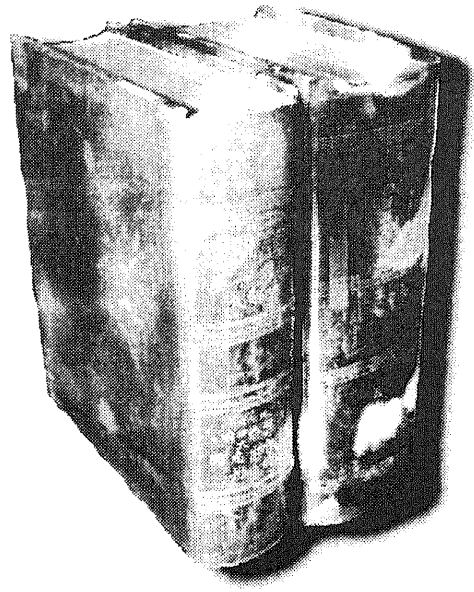
²⁹ 前田元敏著・村端五郎編『今昔日本人の視点』高知大学人文学部、平成20年

- 7) 川田正徹・前田元敏共編纂 *Nesfield's Idiom and Grammar - Abridged and Adapted for Japanese Students*. (文部省検定済、尋常中学校外国語科用教科書) 金港堂、明治31年12月、定価金七拾錢、249p、19cm
- 8) 井上十吉・齋藤祥三郎・前田元敏共著『英語作文』(*New English Composition for Middle Schools*.) 大日本図書株式会社、金貳拾錢明治41年1月、63p、19cm
- 9) 前田元敏著『英語中學卒業生之友・卷の壹』(*Short Sentences and Phrases: Collected and Explained for the Use of Middle School Graduates*.) 大日本図書、明44年4月、定価金貳拾五錢、118p、19cm
- 10) Mototoshi MAYEDA, 'Japanese Views and Reviews' 17編、'The Year of the Ox' 1編、合計18編の英文週刊誌 *The Far East* (John N. Penlington, Ed.)への寄稿随筆、A 42ページ、大正元年11月～大正2年3月
- 11) 前田元敏編『問題詳解 英文和訳ノート』博文館、[推定発行年、大正2年] (前田元敏編『問題詳解 英文法ノート』博文館、大正3年、奥付の博文館出版広告目録、未見) 受験参考全書(1)として出版
- 12) 日本中学校郁文館中学校講師 前田元敏編『問題詳解 英文法ノート』博文館、大正3年12月、定価金貳拾八錢、293p、12cm、受験参考全書(14)
- 13) 前田元敏・阿部新作共編『大正三年度諸官立学校 入学試験問題詳解』(受験参考書シリーズ17) 博文館、大正4年3月、定価金六拾八錢、90p、13cm

3. 『英和對譯大辭彙』

3.1 辞書の評価

『岩波新英和辞典』(1981)及び『岩波新英和辞典 補訂版』(1987)を中島文雄と共編で世に送った忍足欣四郎は、辞書の書評には、「その道の権威が編集したものだから優れたものに決まっている」式の無責任な讃辞を与えたり、特定の語にねらいをつけて収録されているかどうかを指摘して偏った立場から批判したりするような問題があり適切公正ならざるものも少なくない、という主旨のことを述べている³⁰。彼は、そのような問題のある書評は単なる「紹介」であって「書評」



前田元敏

『英和對譯大辭彙』『訂正増補 英和對譯大辭彙』

30 忍足欣四郎『英和辞典うらおもて』岩波書店、昭和57年、p.164.

ではないとしている。

前田元敏は、明治18年とその翌年の明治19年に、それぞれ『英和對譯大辭彙』と『訂正増補 英和對譯大辭彙』を大阪同志出版社から立て続けに刊行しているが、その評価とえば、忍足の言を借りれば「紹介」に終わっているものが多く、刊行された時代的な背景もあつてか決して適切公正な「書評」を受けてきたとは言い難い。

まず、筆者の手元にある前田大辭彙の正確な書誌情報を整理しておくことにする。これから詳述する明治18年初版及び明治19年訂正増補版はいずれも個人蔵である。

3.2『英和對譯大辭彙』の書誌分析と考察

3.2.1 明治18年初版の書誌

この明治18年初版の前田大辭彙の書誌情報は、以下の通りである。

著 者：前田元敏譯述

辞 書 名：英和對譯大辭彙

出版社名：大阪同志出版社

刊行年月：明治18年7月[扉]、明治18年8月[奥付]

装 丁：西洋綴美製本、背部羊皮クロス仕立金文字入

外 寸：縦27.5 cm、横20.5 cm、厚7.5 cm

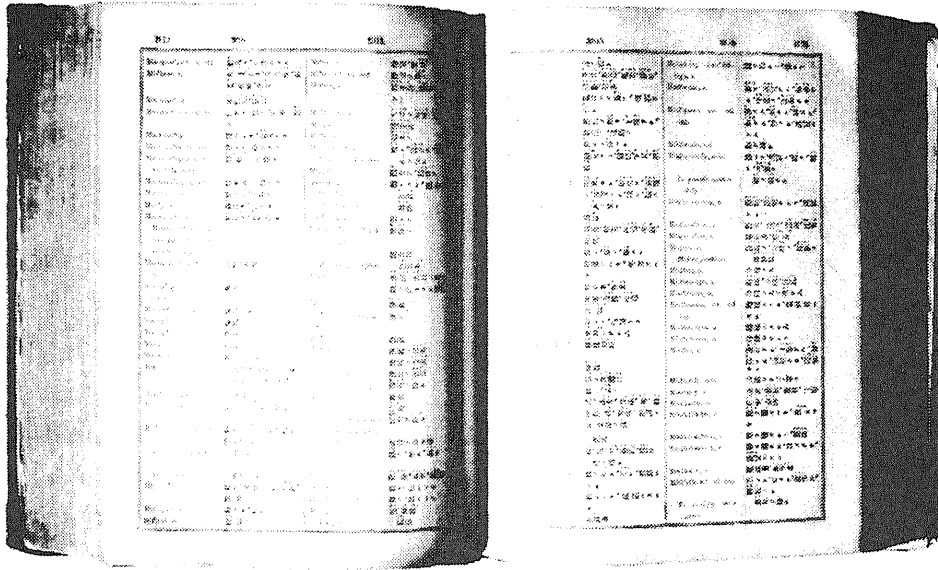
頁 数：viii、1029頁（A部410頁、B部619頁）、1頁2段40行

推定語数：8万余語（大阪同志出版社の出版目録による推定）

定 価：7円50銭



前田元敏『英和對譯大辭彙』明治18年刊



前田元敏『訂正増補 英和對譯大辭彙』明治19年刊

(扉表)

明治十八年七月印行
 英和對譯大辭彙
 大阪同志社活版部

(扉裏)

例言

- 一 此書ハ我邦英學士ニ便益ヲ與ヘント欲シ西曆一千八百八十四年米國チーシーメリアム會社ノ出版ニ係ル全國學士「ノア、ウェブストル」氏原著大學博士「ノア、ポーター」氏及「グードリッチ」氏ニ先生ノ新辭増補セシ英大辭彙ヲ基礎トシ之レニ加フルニ英字典ノ著名ナルモノニ就キ緊要ノ語言數千言ヲ増纂シ之ニ邦語ヲ附シテ刊行ス
- 一 初學輩ノ爲メ文語ニ音符字綴ヲ附シ卷首ニ音調ノ例ヲ揚ケ以テ發音ノ訛謬ナラシム就中解シ難キ語ニ至テハ文語ノ傍ニ括弧()ヲ設ケ字綴ヲ附シ發音ヲ明ニセシム
- 一 算術之語ハ「ロビンソン」「ダウビス」氏ノ著書ニ頼リ校正シテ補入ス
- 一 哲學醫學理化學ノ語ハ本邦大學校ニ専用セラル諸書ヨリ拔萃シ之ヲ挿入ス
- 一 度量ノ語ハ方今ノ制ニ從ヒテ權衡シ記入ス
- 一 譯者非常ノ勞力ヲ費シ校訂ヲ嚴ニセシヲ以テ魯魚ノ歎杜撰ノ責ナカルベシ

明治十八年七月

譯者識

(英文扉表)

AN
 ENGLISH & JAPANESE
 DICTIONARY,
 EXPLANATORY, PRONOUNCING, AND ETYMOLOGICAL,
 CONTAINING
 ALL ENGLISH WORDS IN PRESENT USE.
 WITH
 AN APPENDIX,
 BY
 M. MAYEDA

NEW EDITION.
 OSAKA.
 OSAKA PUBLISHING COMPANY.

(英文扉裏)

Osaka Doshishippansha

(本文)

- 1) KEY TO THE PRONUNCIATION. 發音解 (3p)
- 2) ABBREVIATIONS USED IN THIS DICTIONARY. 編中所用之畧語 (1p)
- 3) 辭書の部、原語横書き、訳語縦書き、ルビ付
 ENGLISH AND JAPANESE DICTIONARY; ETYMOLOGICAL, PRONOUNCING AND
 EXPLANATION.
 A~K (A1 ~ A410)
 L~Z (B1 頁 ~ B517 頁)
- 4) APPENDIX
 扉 (B519 頁)

APPENDIX,
 CONTAINING
 EXPLANATORY TABLES
 OF
 IRREGULAR VERBS, ABBREVIATIONS AND CONTRACTIONS, AND ARBITRARY
 SIGNS USED IN WRITING AND PRINTING
 AND A
 VOCABULARY

OF
MODERN GEOGRAPHICAL NAMES.
TABLE OF IRREGULAR VERBS. 不規則動詞表 (B521~B529)
ABBREVIATIONS EXPLAINED. 略語解 (B530~B545)
ARBITRARY SIGNS. 象形記號之解 (B547~B549)
EXPLANATION OF ABBREVIATIONS. 略語之解 (B550)
A VOCABULARY OF MODERN GEOGRAPHICAL NAMES. 附音近代地名集 (B551~B619)

(奥 付)

唐物町四丁目十番地

大阪同志出版社

明治十八年四月廿四日出版御届

同年八月上旬刻成

譯述者

高知縣士族

前田元敏

高知縣土佐郡廿代町九十一番地

出版者

大阪府平民

花井卯助

府下東區安土町四丁目十一番地

大阪書肆發賣

東區本町四丁目 柏原政治郎

東區北久太郎四丁目 濱本伊三郎

南區安堂寺橋通四丁目 田中太右衛門

東區本町四丁目 岡本仙助

3.2.2 『訂正増補 英和對譯大辭彙』明治 19 年第 2 版

著 者：前田元敏訂正増補・纂述

辞 書 名：訂正増補 英和對譯大辭彙

出版社名：大阪同志出版社（奥付による）

刊行年月：明治 19 年 4 月

装 丁：西洋綴美製本、背部羊皮クローズ仕立金文字入

外 寸：縦 27.5 cm、横 20.5 cm、厚 9.3 cm

頁 数：viii、1083 頁（A 部 464 頁、B 部 619 頁）、1 頁 2 段 40 行

推定語数：8 万余語

定 価：7 円 50 銭

なお、訂正増補版の例言やその他については、明治18年初版を踏襲しているのここでは割愛する。

3.2.3 『英和對譯大辭彙』の書誌的考察

明治18年初版の例言に示されているように、前田大辭彙は1884年刊のウェブスター大辭典 (*An American Dictionary of the English Language by Noah Webster, Thoroughly Revised, and Greatly Enlarged and Improved, by Chauncey A. Goodrich and Noah Porter, Published by G. & C. Merriam & Co., 1884*) を底本として「緊要ノ語言數千言ヲ増纂シ更に數千語」を加えて訳述したものである。初版、訂正増補版のいずれも前半をA部(A~K)、後半をB部(L~Z)として2部に分けている。Webster大辭典や柴田昌吉・子安峻の『附音挿図 英和字彙』に見られるような挿図はない。初版のA部は410頁、B部は619頁、第2版のA部は464頁、B部は619頁となっている。豊田も指摘しているように、この頁数からすれば明治19年の訂正増補は前半部に止まっている³¹。A部とB部に分かれているため、もともと2分冊で刊行されたものとも考えられる³²。前田が底本としたWebster大辭典と版が近いものの中には分冊による刊行本(例えば、私蔵の1869年本は3分冊)もあるので、前田がそれに倣って分冊刊行を考えた可能性もある。いずれにしても、この時代にわが国で刊行された英語辞書には分冊による刊行本は少ないので、もし前田大辭彙が2分冊での刊行であったとすれば異色の辞書とも言える。しかし、残念ながら前田大辭彙の2分冊本はいまのところ未見である。

前田が大阪同志出版(舎)社から明治18年に刊行した訳書『プライマー獨案内』の出版目録によると、収録見出し語数は凡そ8万となっている。明治19年の訂正増補版の収録語数は定かではないが、後述するように増語率は約6%、ただし増補は前半部に止まっていることから、明治19年の見出し語数は8万3千~5千程度と推定できる。

初版の刊行年の明治18年は西暦では1885年にあたるため、底本のWebsterが刊行された翌年に前田大辭彙の初版が刊行されたことになる。僅か1年で千頁、8万余語からなる英和辞書の訳述編纂が可能かどうかは疑問が残るところであるが、いずれにしても、27,8歳の若さで前田がこのような大部の辞書を世に問うたのは驚きである。

また、例言によれば、新たに加えた語の多くは、自然科学の分野で使われる、算数数学³³・医学・理化学に関する語彙が中心である。このことは、前田が東京大学在学中、理学部に席を置いていたことや、中学校や高等中学校の教壇では英語の他に数学や博物学を教えていたことから首肯できる。

31 豊田同上、p. 78.

32 早川勇『日本の英語辞書と編纂者』(愛知大学文学會叢書XI) 横浜、春風社、平成18年、p. 40.

33 例えば、ロビンソンには、Robinson, Horatio N. (1875). *New Elementary Algebra: Containing the Rudiments of the Science for Schools and Academies*. New York: American Book Company. などの教科書がある。

3.3 『英和對譯大辭彙』に対する従前の評価

3.3.1 前田大辭彙の評価をめぐって

前田大辭彙が刊行された明治 18、19 年と言えば、西洋謳歌の風が吹き荒れ、英語学習熱がたまって玉石混淆して英和辭書が続出していたこと³⁴、そして前田大辭彙の訳語が先行の柴田昌吉・子安峻『附音挿図 英和字彙』によっていることが容易に看取されること、主にこれら 2 つの要因によって、前田大辭彙は「内容的にとるに足らない」³⁵などと必ずしも評価を受けてこなかった。

しかし、後に詳しく見るように、理化学や数学、哲学などの専門分野語彙の増補のみならず、「Amaranth, n. : 前田大辭彙；鶏冠花ケイトウクワ 決ケツシテ衰弱カレルセサル花（詩人シジンノ語コトバ）、ウェブスター大辭典（1885）；(Poet.) An imaginary flower that never fades or perishes.」のように底本としたウェブスター大辭典の語義解説を訳語に加えたり、「Danger, n. : Danger can only be conquered with danger. 不入虎穴不得虎子」のように慣用的な例句、ことに例文を多く取り入れるなど、初学英语学生の便を考へての斬新な工夫が随所にみられる。このような特長がありながら、これまで本格的、具体的な検討を行われずに正当な評価を受けてこなかった。そこで、以下では、まず、問題をはらんだ前田大辭彙の評価を具体的に示した上で、筆者のこれまでの調査で明らかになった前田大辭彙の特長を示したい。

3.3.2 前田大辭彙に対するこれまでの評価

明治 5 年に学制が発布されて文部省の教育方針が制定してからは、英語辭書の発行が漸次少なくなり、明治 7 年以後は隆盛時の五分の一程度に減じたが、明治 18、19 年頃よりその刊行数がまた漸次増加するに至った。その原因について、荒木は、その主著³⁶の中で次のように述べている。

- 一・廢藩置県以前即ち学制発布前は各藩学校に於て別に洋学稽古所を設けて盛んに洋学を奨励し外人を聘し、又英学者をして英語を教えさせていたが廢藩と同時に学制が発布され全国に通じて学校制度が完成するに従って洋学を万能とする教育方針が漸次緩和せられ今まで顧られなかった従来の国学と漢学が再び台頭して来た関係ではあるまいか。
- 二・明治維新後五六年の間は一般社会に西洋心酔の氣運が漲って居た為めに、西洋人の生活を模倣せねば承知のできない人達に依って横文字の流行を来し、英語と云うものに初めて接したその興味から日本語ローマ字の綴方を解いたものとか単に A B C の読方を教えたような極く幼稚なものが急速なる需要を来した。その為に僅かの期間にこ

34 惣郷正明『辞書風物誌』朝日新聞社、昭和 48 年、p. 195.

35 早川同上、p. 12.

36 荒木伊兵衛『日本英語学書志』大阪、創元社、昭和 6 年

うしたものが多く刊行されたのではあるまいか。

三・明治五六年まで盛んに行われた英語学書が前記のような理由で漸次衰頹したが明治十九年に至って森有礼が文部大臣になると同時に小学校令の改正を行いその教科目に英語を採用すべき規定を加えて英語を奨励したために再び英語学書及び訳述書類（明治五六年頃に行われた英語学書類には幼稚なものが多かったが明治十八九年頃のものには稍本格的な語学書が行われるようになった）が盛んに行われ出したのではあるまいか。（pp. 364-366、下線村端）

その上で、荒木は、前田大辭彙については次のように紹介している³⁷。

英和對譯大辭彙 一冊 前田元敏譯 明治十八年（1885）大阪同志社活版部刊
本書は主として Webster 辭典の増補版に據つもので Webster 式の發音符號を採用してゐる。

洋紙・洋装・活版刷（縦二七・五糎 横二〇・五糎）六百十九頁。[77]（下線村端）

最終行の誤りに注意していただきたい。619 頁というのは B 部の頁数である。荒木は、前田大辭彙が、A 部と B 部、2 つに分かれていたことを見落とした可能性がある。また、岩崎は³⁸、柴田昌吉・子安峻『英和字彙』の訳語の系統を見るため、明治 30 年前後までに出版された英和辞書を 50 冊ほどを挙げていますが、そのなかで前田大辭彙も以下のように紹介している。

11. 英和對譯大辭彙 前田元敏譯 大阪同志社活版部 明治十八年（1885）[77]
27.5 x 20.5cm. 619pp. [77] 未見。豊田博士に依れば譯語は「日就社辭書に非常に近い」と。増訂版がある。

訂正増補 英和對譯大辭彙（刊所同前）明治十九季（1886）四月印行 An Eng. and Jap. Dict., Explanatory, Pronouncing, and Etymological, etc. By M. Mayeda. New Ed. Osaka, Osaka Publishing Co. (27. x 19cm. viii + 619 + ii pp.) [77]（下線村端）

ここにも重大な誤りが見られる。やはり B 部の頁数しか示していない。「増補版がある」としながらも、初版と増補第 2 版の頁数が同一の不自然さに気づいていない。もっとも前田大辭彙は「未見」で、かつ、訳語について豊田の見解を引用しているので、先行見解を無批判に踏襲していることに疑いの余地はない。

豊田は、第一部「語学」の第一節「英和及び和英辞書の発達（明治 21 年迄）」の中で、イギリス系の辞書の一つとして前田大辭彙を紹介している³⁹。前田大辭彙は、先に述べ

37 荒木同上、p. 379.

38 岩崎克己（著作兼発行者）『柴田昌吉傳』一誠堂書店、昭和 10 年、p. 82.

39 豊田実『日本英学史の研究』東京、岩波書店、昭和 14 年、p. 78.

たようにウェブスター辞書を台本としたものなので、文字通り厳密に言えば、ウェブスター系の辞書であるが、豊田が前田大辭彙をあえてイギリス系の辞書と分類したのは、その訳語や付録がイギリス系の代表的辞書の一つである柴田昌吉・子安峻『英和字彙』(日就社)のそれとの密接な関係が看取されるからである。また、豊田が作成した英和及び和英辭書年代表(明治21年迄)⁴⁰の中でも、前田大辭彙について先ほど指摘した頁数の誤りがみえる。

86. 英和對譯大辭彙 前田元敏譯 大阪 明治十八 20x27cm. viii + 619 + ipp. [??] (下線村端)

98. 訂正増補 英和對譯大辭彙 前田元敏譯 大阪 明治十九 19.3x27.2cm. viii + 619 + ipp. [??] (下線村端)

豊田の『英和對譯大辭彙』解題をまとめると、①発音表記はウェブスター式を採用し柴田字彙と異なる。②単語綴りの英語米語による相違(語尾)が混在している。③語彙訳語とも柴田・子安字彙に拠ったものであろうが多少の敷衍と省略がみられる。④巻末の付録は柴田・子安字彙にもみられる開成所辞書(英和对訳袖珍辞書)以来のオランダ系である。⑤翌年出された訂正増補は比較的前半部の部分にみられる、となる。豊田は、前後の辞書の解題にはせいぜい数行しかあてていないのに、このような前田大辭彙に対する解題には約2頁を割いている。豊田解題の全体的な印象からすれば、前田大辭彙にどれほどの評価を与えていたかは定かではないが、少なくとも、ある程度のスペースを割いてでも少々詳しく検討しようという姿勢が窺えることは確かである。

早川は『ウェブスター辞書と英和辞典』書中の「鹿鳴館時代のウェブスター辞書の影響」の項で、前田大辭彙初版(明治18年)を以下のように解説している⁴¹。ただし、訂正増補第2版(明治19年)には触れていない。

明治18年(1885) 前田元敏訳『英和对訳大辭彙』(大坂・同志社活版部、v + 619頁[??])

例言に1884年版の「ノア、ポーター」と「グールドリッチ」が編纂増補したウェブスター大辭典に拠るとある。確かに、語彙の中身や発音はウェブスター式である。ただし、ウェブスター大辭典をそのまま利用したのではなく、それを中心として他にも先行の英和辞書を利用している。特に、縦書きの訳語は『英和字彙』を底本として、それを訂正増補する形で作業を進めている。この意味で、訳語については『英和字彙』を大きく超えるとは言い難い。熟語もウェブスター辞書から採っているが、その数はきわめて少ない。また、「算術之語」については「ロビンソン」と「ダウビス」氏の著作を参照したとある。哲学・医学・理化学の語彙は「本邦大學校二専用セラル諸書

40 同上、pp. 154-164.

41 早川勇『ウェブスター辞書と英和辞典』中部日本教育文化会、平成10年、p. 157.

ヨリ拔萃シ之ヲ挿入ス」とある。附録として「不規則動辞表」「略語解」「象形記号之解」は『改正増補 英和对訳袖珍辞書』（慶応2年）以来の伝統を継承した。「附音近代地名集」はウェブスター大辞典の附録をそのまま利用した。この英和辞書も新時代を画するものとは言い難い。先行の諸辞書を参照し、発音及び語彙選定においてウェブスター色を出した。（下線村端）

この早川の解説で重要なのは、熟語の増補についてである。早川は熟語の増補は認めているものの、その数の過少さのゆえ、訳語も先行例を踏襲しており、結果的にそれほど斬新な英和辞書ではないと断定している。早川はその近著でも次のように述べている⁴²。

明治政府はさかんに欧化政策を進めた。明治16年にはその象徴とも呼べる鹿鳴館が開かれた。明治20年までの鹿鳴館時代に、英和辞典が陸続と出版された。新しい英和辞書が求められ、ウェブスター辞書を底本とする辞書が誕生した。なかでも尺振八の『明治英和字典』（明治17-22年）は秀抜な内容である。ウェブスター辞書を参照し、○印によって語義を区分した。[天]（=天文学）のように専門領域を示し、（水又空気ニ云フ）のように括弧を用いて意味領域を限定した。（中略）

明治18年には、早見純一『英和对訳辞典』、前田元敏『英和对訳大辞彙』、箱田保頭『訂訳増補 大全英和辞書』、入江依徳『附音挿図 英和玉篇』、梅村守『和訳 英字典大全』（明治18-19年）など、底本ウェブスター辞書と銘打つ数多くの英和辞書が刊行された。しかし、内容的にはどれもとるに足らない。原典を直接参照せず、ウェブスター系と称しているに過ぎないものもある。（下線村端）

早川は、尺振八の『明治英和字典』を高く評価している一方、前田大辞彙は、明治18年前後に刊行された他のウェブスター系辞書と同様に「内容的にとるに足らない」と評している。

また、早川によると、大正4（1915）年の井上十吉『井上英和大辞典』の頃に英国で出版されたCOD（*Concise Oxford Dictionary of Current English*, 明治44（1911）年）にして、機能語の記述が詳しくなったり、定義を補うものとして不可欠な用例や慣用的な表現、語と語のつながりを示す例文をあげる辞書が増えたと述べている⁴³。しかし、後述するように、前田元敏の明治19年『訂正増補 英和对訳大辞彙』は、このような慣用的な表現や連語を示す用例が多いのが最大の特長であり、前田元敏はすでに明治18・19年頃に日本人英語学習者にとって慣用的表現や用例の例示が不可欠と考えていたのである。

このように、いくつか顕著な特長（次節参照）があるにもかかわらず、従前の前田大辞彙の評価は決して高くはなかった。それはなぜか。まず第一の理由として考えられる

42 早川同上、平成10年、p. 12.

43 同上、pp. 13-14.

のは、前田大辭彙が刊行された当時の時代背景である。明治7年以降、本格的な英語辞書の刊行はいったん影をひそめ、隆盛期の5分の1弱に減じたが、欧化政策がとられると明治18、19年頃より再び英学熱が高まり、辞書の刊行数が漸次増加するようになった⁴⁴。惣郷は、明治20年前後の英和辞書出版事情を以下のように述べている⁴⁵。

永らく鎖国をつづけた徳川幕府が、その末期に開港を迫られて、諸外国と結んだ通商修好条約は、居留地、治外法権を認める不平等条約であった。

明治新政府の宿題は、この不平等条約の改定であった。井上馨が外務卿になってから、論議が盛んとなり、明治二〇年前後は、居留地、治外法権を撤廃して、その代わりに外国人の国内居住、旅行、営業の自由を認めようという内地雑居論が行われ、商人や芸者の間にも、にわかに英語熱が高まった。

実際の改正は、ずっとおくれて明治三二年、ようやく念願の平等条約を獲得したが、内地雑居を見こした英語の入門書や簡単な会話書が、明治二〇年前後には甚にあふれた。

英和辞書も、このごろ玉石混淆して世にあらわれ、その続出の有様を、時事新報は、世間の需要があるというよりも、英和辞書を作るのがやさしいためだ、そのわけというのは先人の著した辞書を盗用して編集するだけだから、手軽に英和辞書ができあがり、「改良訂正」をうたいながら、いっこうに改良の実をあげていないと記している(明治二十一年二月)。

明治一八、一九年には、明治四年版の「薩摩辞書」が、東京、大阪、京都で何種類も復刻して出版された。「薩摩辞書」というのは、薩摩藩の学生、前田正毅、高橋良昭が洋行の費用をかせぐため上海で印刷した「大正増補和訳英辞林」のことで、これらの復刻版は、元版にある「上海プレスビテリアン・ミッション・プレス印刷」の英文を、そのままのせるほどの無神経さであった。

これと並んで明治六年版の「附音挿図 英和字彙」(柴田昌吉・子安峻共著)も、名前を変えていくつか出版された。

高杉晋作の遺児、高杉東一が内閣印刷局で印刷した「英和新国民大辞書」も、印刷、製本はりっぱだが、内容は「薩摩辞書」と柴田らの「英和字彙」を合わせたもので、新味のある辞書ではなかった。

このように、ノリとハサミで切貼りした抜取り辞書はその後も横行した。一番目につく最初のページと最後のページだけに手を入れて、あとは先行書そのままというのが多かった。時事新報のなげきも、もったもである。

当時、こんな辞書を芋辞書と呼んでいた。出版社に頼まれた学生が、いいかげんに辞書を切貼りして注文に応じ、手に入った金で、焼芋を買ったところから出た言葉である。(下線村端)

44 荒木同上、p. 364.

45 惣郷正明『辞書風物誌』朝日新聞社、昭和48年、pp. 195-196.

このような時代背景の中であって前田大辭彙は世に出たのである。そのうえ、ほぼ共通に指摘されてきたように、確かに前田の訳語は柴田・子安字彙の踏襲が容易に看取される。否定的な時代背景と先行辞書の訳語との近似性が本格的、綿密な調査から前田大辭彙を遠ざけ、「ノリとハサミで切貼りした抜取り辞書」「偽装辞書」「芋辞書」「異名同体の英和辞書」、現今で言えば「海賊版英和辞書」の1つと見なされ、正当な評価を受けてこなかったと考えられる。そこで次節では、量的、質的の両面から前田大辭彙を分析し、前田大辭彙の再評価を試みることにする。

3.4 『英和對譯大辭彙』の特長

3.4.1 再評価の視座

本節では、前田大辭彙の初版『英和對譯大辭彙』（明治18年）及び同訂正増補版（明治19年）の特長について、量的、質的の側面から、具体的には次のように分析と考察を進めていく。まず、量的面からは、柴田・子安字彙の明治6年初版、明治15年増補訂正版、明治20年増補訂正第2版との収録見出し語総数や収録語の差異を統計的に分析する。次に、収録見出し語や訳語、用例など、内容的、質的な面での検討では、主に柴田・子安字彙の明治15年第2版との比較を行っていく。比較の対象に柴田・子安字彙の明治15年第2版を取り上げるのは、前田大辭彙の訳語はこの辞書に依っていると豊田が指摘しているため⁴⁶、前田大辭彙も例に漏れずこの先行辞書を模倣した「偽装辞書」であるのか、あるいは何らかの特色があるのか、これらの問題を探るには柴田・子安字彙の第2版が最適と考えたからである。

さらに、質的な検討においては、「秀逸な内容である」と早川が評価している尺振八の『明治英和字典』六合館蔵版、明治17-22年と、前田が底本とした Webster 大辞典 1884年刊本と内容的には同一の 1885年刊本（私蔵）*An American Dictionary of the English Language by Noah Webster, Thoroughly Revised, and Greatly Enlarged and Improved, by Chauncey A. Goodrich and Noah Porter, Published by G. & C. Merriam & Co.* を適宜参照する。

3.4.2 量的検討

以下の分析にあたっては、それぞれの辞書を以下のように略して表記することとする。

- 柴田・子安字彙明6（柴田昌吉・子安峻『附音挿図 英和字彙』日就社、明治6年）
- 柴田・子安字彙明15（柴田昌吉・子安峻『増補訂正 英和字彙』日就社、第2版、明治15年）
- 前田大辭彙明18（前田元敏『英和對譯大辭彙』大阪同志出版社、明治18年）

46 豊田同上、p. 78.

前田大辭彙明 19（前田元敏『訂正増補 英和對譯大辭彙』大阪同志出版社、第 2 版、明治 19 年）

柴田・子安字彙明 20（柴田昌吉・子安峻『増補訂正 英和字彙』日就社、第 2 版再版、明治 20 年）

表 1 は、例言や出版目録等の記載から推定した前田大辭彙と柴田・子安字彙の見出し語総数の比較である。

表 1 前田大辭彙と柴田・子安字彙の見出し語総数の比較

辞書名	総収録見出し語数	備考
柴田・子安字彙明 6	55,000	例言
柴田・子安字彙明 15	65,000	例言
前田大辭彙明 18	80,000	出版目録
前田大辭彙明 19	不明	
柴田・子安字彙明 20	不明	

前田大辭彙明 19 及び柴田・子安字彙明 20 の見出し語総数が不明であるため、これら 5 つの辞書の A 項の見出し語総数を調査して、その比率から見出し語概数を推定した。表 2 はその結果である。各辞書の見出し語数と柴田・子安字彙明 6 を 100 とした場合の割合をそれぞれ示している。

表 2 前田大辭彙と柴田・子安字彙の A 項目の見出し語数比較

辞書名	A 項の見出し語数	% (柴田・子安字彙明 6 = 100)	推定見出し総数
柴田・子安字彙明 6	2,572	100.0	55,000
柴田・子安字彙明 15	3,251	126.4	69,520
前田大辭彙明 18	3,071	119.4	65,670
前田大辭彙明 19	3,268	127.1	69,905
柴田・子安字彙明 20	3,322	129.2	71,060

もし仮に柴田・子安字彙明 6 の例言に示されている語数（5 万 5 千語）が正確であるとすれば、前田大辭彙明 18 の見出し語総数は約 6 万 5 千語で、出版目録に記されている総数の 8 万語に比すと遙かに少ない。しかも、参考にしたとされる柴田・子安字彙明 15 よりも 4 千語程度も少ないことになる。また、前田大辭彙明 19 の増補版においては、初版明 18 より約 4 千語が増加しているが、増補が A 部の前半部に止まっていることを考慮すれば、実際上の増加語数は約半数の 2 千語程度と思われる。仮に前田大辭彙明 19 の増補が後半部の B 部にまで及んでいれば、柴田・子安字彙明 20 の語数程度の 7 万語超の総語数を収録していたものと考えられる。今回の調査で示した総語数はあくまで

も試算である。より正確な総語数については今後の本格的な調査を待ちたい。

次に収録語にどの程度の違いにあるかについて検討する。すなわち、一方の辞書では収録されているのに、もう一方の辞書では収録されていない見出し語の検討である。もし前田大辭彙が柴田・子安字彙などの先行辞書の模倣であるとすれば、収録語の差はそれほどないはずである。そこで、再び柴田・子安字彙と前田大辭彙のA項について調査した。表3はその結果である。

表3 収録見出し語の差異 (Aの項)

辞書名	柴田・子安字彙明6	柴田・子安字彙明15	前田大辭彙明18	前田大辭彙明19	柴田・子安字彙明20	見出し語総数
柴田・子安字彙明6	-	0	142	130	6	2,572
柴田・子安字彙明15	682	-	684	653	17	3,251
前田大辭彙明18	637	504	-	2	479	3,071
前田大辭彙明19	830	674	203	-	647	3,268
柴田・子安字彙明20	757	93	734	702	-	3,322

表3中の数字は、例えば、柴田・子安字彙明6に収録されていて、同明15に収録されていない語は0語、前田大辭彙明18は142語、同明19は130語、柴田・子安字彙明20は6語というように、各辞書間の収録語の差を示している。表3で注目したいのは、柴田・子安字彙明15と前田大辭彙明18、同明19との間の収録語差の数である。柴田・子安字彙明15の収録語総数3,251語のうち、前田大辭彙明18に収録のない語の数は684で21.0%、逆に前田大辭彙明18に収録の見出し語総数3,071のうち、柴田・子安字彙明15に収録のない語は504で16.4%を占めている。これらの数字が示すのは、前田大辭彙が柴田・子安字彙などの先行辞書の単なる「ノリとハサミで切貼りした抜取り辞書」でも「異名同体の英和辞書」でもないということである。収録語の質的観点から、前田は具体的にどのような語を多く収録しているのかを調査すれば、さらに前田大辭彙の特長が明らかになるものと思われる。

3.4.3 質的検討

前節では、前田大辭彙を量的な観点から柴田・子安字彙と比較し、その結果、前田大辭彙は単なる先行辞書のコピーではないことを示した。本節では、さらに踏み込んで質的な側面から前田大辭彙の特長にせまることにする。具体的には、特定分野に関する用語の収録の有無や用例等に見られる特長を浮き彫りにするため、再び柴田・子安字彙明15と、新たに尺振八『明治英和字典』六合館蔵版、明治17-22年(以後、尺字典明17-22)を参照しながら前田大辭彙の質的検討を進める。

前田大辭彙の例言に「算術之語ハ『ロビンソン』『ダウビス』氏ノ著書ニ頼リ校正シテ補入ス、哲學醫學理化學ノ語ハ本邦大學校ニ専用セラル諸書ヨリ抜萃シ之ヲ挿入ス」と記されている。そこで、まず、算術と他の自然科学分野に係る用語の特長について検

討する。前田元敏は、東京大学では理学部に所属し、採鉱学を専攻していた。したがって、前田は、数学や理化学に関する知識が豊富で、また、自然科学を専攻する学生にも有用な英和辞書の必要性を感じていたはずである。

例言にある「ロビンソン」は Horatio N. Robinson で、「ダウビス」は Charles Davies と考えられる。それぞれ、Robinson, Horatio N. (1875). *New Elementary Algebra: Containing the Rudiments of the Science for Schools and Academies*. New York: American Book Company, Charles Davies (1858). *Elementary Algebra: Embracing the First Principles of the Science*. New York: A. S. Barnes & Co. という著書がある。前者の Section IV. Quadratic Equations (pp. 220-254) で使われている数学用語を取り出して、柴田・子安字彙と前田大辭彙の記載内容を比較してみる。以下の2語は、数学用語増補の痕跡が見える例である。

Cuber, n.

◇柴田・子安字彙明 15

[見出し語なし]

◇前田大辭彙明 18

立方體 (タイ)⁴⁷、三乗方 (サンジヤウ)、立方

Cube root. 立方根 (コ)

Quadratic, a.

◇柴田・子安字彙明 15

四角ノ

◇前田大辭彙明 18

方形ノ

Quadratic Equation. 二次方定式 (ニシウテイシキ)

また、前田大辭彙には見えるが、柴田・子安字彙明 15 には見えない理化学用語をいくつか取り上げてみる。尺振八の『明治英和字典』と Webster (1885) の訳語や解説を適宜参照する。

AAA

◇前田大辭彙明 19

in chemistry, stand for amalgam or amalgamation. 化學上 (カガクジヤウ) ニ於テアマルガム或ハアマルガメーション之代用字 (タイヨウジ)

Alewife, n.

◇前田大辭彙明 18

麥酒店ノ女主 (マキヤウジノメ)、魚 (イサ) ノ名 (ナ) (青魚 (ニシ) ノ類 (ルビ))

◇Webster, N. (1885) (別見出し語)

A woman who keeps an ale-house.

47 以下、「立方體 (タイ)」の(タイ)のように、(半角仮名)で示すのはルビを表す。

An American fish, resembling the herring; *Clupea serrata*.

Annotinous, a.

- ◇前田大辭彙明 18
一ヶ年ノ (植物語)
- ◇尺字典明 17-22
[見出し語なし]
- ◇Webster, N. (1885)
(Bot.) A year old.

Anticlinal, a.

- ◇前田大辭彙明 19
背傾 (ハクイ) ノ 背傾地層ノ界線 (サヒロシ) (地質學ノ語)

Antalkali, n.

- ◇前田大辭彙明 18
アルカリヲ制 (セイ) スル薬 (クスリ)
- ◇尺字典明 17-22
[見出し語なし]
- ◇Webster, N. (1885)
(Med.) A remedy for the purpose of neutralizing alkali, or of counteracting and alkaline tendency in the system.

Ashblue, n.

- ◇前田大辭彙明 19
銅 (アガネ) ト石灰水 (サヒロシ) ト混和 (マゼ) シタルモノ

Axstone, n.

- ◇前田大辭彙明 19
礦物ノ名

上の 'Alewife, n.' や 'Annotinous, a.' の訳語・解説は、底本とした Webster 大辞典に依ったことは明らかである。ここに示した例は一部ではあるが、理化学分野の用語が多く採用され、それらの訳語・解説には Webster 大辞典が参考にされている。

次に、採用している例句・例文などの用例に注目して、前田大辭彙と特長を検討する。以下にいくつか特徴的な例をあげる。

Account, n.

- ◇柴田・子安字彙明 15
計算。日記?。數項。數目。説。辨解。道理。縁故。利益。思慮。尊敬。肝要。報告。談話 To enter an account. 登簿スル A adjust account.[sic] 會數 I have no account of him. 未ダ消息ヲ聞カズ On account of. 因テ。爲ニ。由縁ニテ。所以 A man of no account. 小人 On this account. 是故ニ Upon all account. 常時 An account book. ?簿。

數簿 To settle an account. 結算スル

◇尺字典』明 17-22

計算。勘定書。帳簿。報告。始末書。理由。緣故。紀事。記録。話説。辨解。豫算。
概算。緊要。價值。利益。

To settle an account. 決算スル。

To keep one's account at the bank. 出納ノ計算ヲ銀行ニ托ス。

To enter an account. 登簿スル。

On my account. 我方爲メニ。我方故(ニ)ヲ以テ。

On no account. 萬不可。

On every account. 奈何ニシテモ。

On all account. 百方。

An account of events. 事蹟ノ記録。

An account of a country. 風土誌。

A man of account. 有體面ノ人(材ノ有レト)。

To turn to account. 利用スル。

◇前田大辭彙明 18

算計(カンジヤ)、日記(ニジ)、説(セツ)、辨解(イハワ)、道理(ダウリ)、緣故(ワ)、
利益(リキ)、思慮(カガエ)、尊敬(タツビ)、肝要(カエウ)、報告(シヤ)、談話(ハシ)

To enter an account. 登簿(チウニツル)

I have no account of him. 未聞消息(マダオヒシレカヌ)

On account of. 因(ヨ)テ、爲(タメ)ニ、由(ワ)縁ニテ

A man of no account. 小人(ツマラヌト)

On this account. 是故(コレニ)ニ

Upon all account. 常時(ツ子ニ)

An account book. 帳簿(チャウブン)

To settle an account. 結算(ケツサン)

To make up account. 計算(ケイサン)

To turn to good account. 好策(ヨクスル)度

Account Book. 帳簿(チウ)

◇前田大辭彙明 19

算計(カンジヤ)、日記(ニジ)、説(セツ)、辨解(イハワ)、道理(ダウリ)、緣故(ワ)、
利益(リキ)、思慮(カガエ)、尊敬(タツビ)、肝要(カエウ)、報告(シヤ)、談話(ハシ)

To enter an account. 登簿(チウニツル)

I have no account of him. 未聞消息(マダオヒシレカヌ)

On account of. 因(ヨ)テ、爲(タメ)ニ、由(ワ)縁ニテ

A man of no account. 小人(ツマラヌト)

On this account. 是故(コレニ)ニ

Upon all account. 常時 (ツ子ニ)
 An account book. 帳簿 (チャウブン)
 To settle an account. 結算 (ケツサン)
 To make up account. 計算 (ケイサン)
 To turn to good account. 好策 (ヨクソウ) 度
 Account Book. 帳簿 (チャウブン)
 Intercourse, n.

◇柴田・子安字彙明 15

交通。往來。交際。相通 Intercourse of nations. 國ノ交通。國ノ交際。Illicit intercourse. 私通 To cut off intercourse. 絶交スル Sexual intercourse. 媾合。情交

◇尺振八『明治英和字典』明治 17～22 年

交通。交際。往來。
 Intercourse of nations. 邦國ノ交通。國ノ交際。
 Sexual intercourse. 交接。交情。
 Illicit intercourse. 私通。姦通。
 To cut off intercourse. 絶交スル。交際ヲ斷つ。

◇前田大辭彙明 18

交通、往來、交際 (アヒダガウ)、相通 (ツジアヒ)

◇前田大辭彙明 19

交通、往來、交際 (アヒダガウ)、相通 (ツジアヒ)
 Foreign intercourse. 外國 (ガコク) 交際 (カサイ)。
 Sexual intercourse. 男女 (ナンジョ) ノ交合 (カガウ)
 Intercourse of amorous looks. 情眼 (シヤウガン) ヲ通 (カ) ハス事 (コト)
 Intercourse of friends. 朋友 (トウゴ) の交 (ワザリ) リ
 Friendly intercourse between France and China was once broken by the Tonquin affairs.
 佛國 (フツク) ト支那 (シナ) ノ和親 (ワシン) ハ東京 (トウキョウ) 事件 (ジケン) ノ爲 (タメ) ニ一度 (ヒトタビ) 破 (ヤブ) レタリ

Avail, v.t.

◇柴田・子安字彙明 15

利スル、盒スル、乗ズル、助勢スル To avail one's self of an opportunity. 機會ニ乗ズル

◇尺振八譯『明治英和字典』六号館蔵版、明治 17?22 年

乗スル。盒スル。利スル。助クル。
 To avail one's self of an opportunity. 機會ニ乗スル。勢ニ乗スル。

◇前田大辭彙明 18

利 (リ) スル、盒 (イキ) スル、乗 (シヤウ) スル、助勢 (カシ) スル
 To avail of an experienced hand. 熟手 (ジュクテ) ヲ藉 (カ) ル

◇前田大辭彙明 19

利(リ)スル、益(イ)スル、乘(シヤ)スル、助勢(カシ)スル

To avail of an experienced hand. 熟手(ナラヘ)ヲ藉(カ)ル

I will avail myself of your kindness. 御親切ニアマイテ致シマシヨウ

Increase, n.

◇柴田・子安字彙明 15

増加。加添。成長。生産。子孫

◇尺振八譯『明治英和字典』六号館蔵版、明治 17?22 年

増大。加廣。加増。累積。利益。子孫。産出。

◇前田大辭彙明 18

加増(カウ)、加添(カハリ)、成長、生産(セパン)、子孫(シソ)

◇前田大辭彙明 19

加増(カウ)、加添(カハリ)、成長、生産(セパン)、子孫(シソ)

Increase of appetite. 食慾(シヨク)ノ増加(スミ)

Increase of the moon. 月(ツキ)ノ満(ミ)

Increase of the land. 土地ノ産物(サブツ)

Increase of the house. 子孫(シソ)

Organs of increase. 生殖器(セイヨク)

To take the increase. 利息(リク)ヲ取ル

このようにみると、前田大辭彙の例句・例文の豊富さがわかる。ことに明 19 年第 2 版は際立っている。そこで、さらにそれを検証するため、前田大辭彙明 18 と同明 19 をもう少し詳しく比較してみる。以下は、明 19 において、明 18 に例句・例文を新たに、あるいは追加的に増補した例である。諺や金言が多く含まれているのが特長である。

A, The indefinite article.

A horse. 馬一匹

A dog. 狗一匹

A few days. 数日

A house. 家一軒

But a little. 只少許

A pen. 筆一枝、一軸、一本

A volume. 一卷

Now a days. 此頃

A room. 一間

A great deal. 大分、大イニ

A piece of cloth. 布一疋

A little while. 暫時

A boat. 船一隻

Twice a year. 年二両度

A sheet of paper. 紙一張或一帖

Many a man. 衆多ノ人

A pair of shoes. 靴一足、一對

A tree. 一株或一本ノ樹

Accountable, a.

Man is accountable to God. 人ハ天ニ對シテ責任ヲ自ヲ負フベキ者

Accumulate, v.t. or i.

Dust when accumulated makes a mountain. 塵モ積レバ山トナル

Admiration, n.

Admiration is the greatest passion of women. 人之感歎稱美ヲ冀フハ婦女ノ大欲

Angel, n.

Women are ministering angels. 婦人ハ人ヲ世話スル天命ナリ

Anon, adv.

A little snow, tumbled about, anon becomes a mountain. 僅カノ雪轉ジ来リテ忽チ山トナル

Apropos, adv.

A thing comes apropos. 開 (アイ) タロ (ケ) ニ牡丹餅

Avail, v.t.

I will avail myself of your kindness. 御親切ニアマイテ致シマシヨウ

Blessed, a.

Blessed is he who is pure in heart. 心ノ清キ者ハ幸ナリ

Blush, n.

Virgin blush of innocence eclipses the harlotry of art. オボコ虎女 (ムスメ) ノ赧然 (ホッ) 面 (カ) ヲ赤 (アカ) ラメタルハ様子 (ヤス) ヲシタル娼妓 (シヨ) ノ態 (サマ) ヨリハ遙 (ハカ) ニ勝 (マサ) ル

Butt, v.t.

The ramb butts against the hedge. 羝羊藩ニ觸ル

Bygone, n.

Let bygones be bygones. 濟 (ス) ダ事ハ濟 (ス) ダトシテ置クガ宜 (ヨイ)

Canary, v.i. (sic).

The canary bird sings very sweetly. カナリヤ島ノ鳴クハ誠ニ快也

Candid, a.

A candid speaker. 打明テ物ヲ言フ人

Canker, n.

Canker of the stomach. 胃癌

Call, v.i.

To call upon any one. 人ヲ訪問スル

Calm (kam), a.

Calm sea. 穏カナル海. Calm mind. 落付タル心

Cat, n.

It rains cats and dogs. 大雨篠ヲ衝ク

Cat is a spiteful thing. 猫ハ執念ブカキ者

Ceremony, n.

Please take it without ceremony. 御遠慮ナシニ召アガレ

Charge, n.

Honorable retreats are in no way inferior to brave charges. 道理ニ合ヒタル退陣ハ勇敢ノ攻撃ニ比スルニ譲ル所更ニ無シ

Charity, n.

Charity begins at home. 負(オツ)タ子ヨリ懐(ダイ)タ子

Chasten, v.t.

Whom God loves he chasteneth. 神ハ愛スル者ヲ懲罰ス

Cover, v.t.

There is nothing covered that shall not be revealed. 隠レテ顯(ア)ハレザル者ハ一モ無シ

Danger, n.

Danger can only be conquered with danger. 不入虎穴不得虎子

Death, n.

Life and death depend on the will of God. 死生ハ神ノ掌中ニアリ

Debase, v.t.

Pleasure and sensuality debase men into beasts. 情慾(ジウヨク)逸樂(イツラク)ハ人ヲシテ禽獸ニ成下(オチカガ)ラシム

Delighted, v.t. or i.

I am delighted. 喜バシク存ジマス、畏(カシ)マリマシタ

Endure, v.i. or t.

God's mercy endureth for ever. 神ノ恩恵ハ長久ニ存ス

Fallacious, a.

A fallacious argument. 謬説

Fallen (fawln), a.

O ignorance! thou art the fallen men's best friend. 嗚呼無知ヨ汝ハ誠ニ此墮落シタル人類ノ第一ノ良友ナリ(知ヌハ佛)

False, a.

A false accusation. 誣告

Feather, n.

Fine feathers make fine birds. 馬子 (マゴ) ニモ衣裳 (イショウ)

Flower, n.

The flower of the nation is consumed in its war. 國中 (コクヂ) ノ第 (ダイ) 一等 (イチ) ナル者戦亂 (セラン) ノ中 (ナカ) ニ没ス

Truth needs no flowers of speech. 真理 (マコト) ハ言詞 (コトバ) ノ飾 (カザリ) ヲ要 (イコ) セズ

Food, n.

Music is the food of love. 音楽 (オガキ) ハ愛情 (アイジヤウ) ノ食 (シヨク)

Honesty, n.

Honesty is the best policy. 眞實 (シジツ) ハ方便 (ハウベン) ノ最上 (サイジヤウ)

このように豊富な例句・例文をあげることは、初学の生徒たちにとって英文解釈や英作文の際の便となるのは疑いの余地はない。表4は、前田大辭彙明19の前半部のA部に用例を増補された見出し語数と用例増補総数を表している。

表4 前田大辭彙明19のA部に増補された用例総数

	用例増の見出し語数	用例増補総数
A	176	258
B	98	122
C	241	361
D	91	150
E	41	63
F	79	115
G	15	26
H	15	61
I	60	90
J	0	0
K	0	0
計	816	1,246

前田大辭彙明18に比べると、明19では用例が増補された見出し語総数は816におよび、用例そのものは1,246も増加している。前田元敏の並々ならぬ意気込みが感じられて興味深い。

前節でみたように、早川は、英国で出版されたCODの影響を受けて、大正時代を代表する井上十吉『井上英和大辞典』を例にあげて、語義の記述が詳しくなったり、定義を補うものとして用例や慣用的な表現、語と語のつながりを示す例文をあげる辞書が増えたと述べている。しかし、ここで考察したように、とりわけ前田大辭彙明治19の訂正増補版は、柴田・子安字彙と比較しても慣用表現や連語を示す用例が多い。このよう

な工夫は早くも明治 18-19 年頃の英和辞書に萌芽として見えていたのである。

もう一つ前田元敏の工夫が見られる点がある。それは、訳語を示した後に解説を付加して意味領域を限定している点である。その際、Webster 大辞書の定義・語彙解説等を和訳しているものが多く目につく。このような工夫は尺字典明 17-22 にも一部見られるが、柴田・子安字彙や同時代の他の辞書にはあまり見られない。以下に例をいくつか示す（下線村端）。

Aback, adv.

◇柴田・子安字彙明 15

後二。後邊二。意外二。忽然

◇前田大辭彙明 18

後 (アト) 二、後邊 (シ) 二、帆 (ホ) ガ風 (カゼ) ノ爲 (タ) メ帆柱 (ホシ) 二壓着 (ヲシツル) セラレテ (航海者 (ヲカ) ノ語 (コト))

◇尺字典明 17-22

後 (アト) 二。後 (アト) ノ方ニ ○裏帆ヲ打タレテ (帆ノ前面ヨリ風ヲ受ケテ枹 [木偏に危] 檣 (ホシ) 二吹き付ケラルヽヲ云フ) (航)

◇ Webster, N. (1885)

(Naut.) Backward against the mast; - said of the sails when pressed by the wind.

Abannition, n.

◇柴田・子安字彙明 15

一年乃至二年ノ流罪

◇前田大辭彙明 18

一年乃 (イッネン) 至二年 (ニネン) ノ流罪 (人 (ヒト) ヲ殺 (コ) シタル罪 (ツミ))

◇尺字典明 17-22

[見出し語なし]

◇ Webster, N. (1885)

A banishment for one or two years for manslaughter.

Abattoir, n.

◇柴田・子安字彙明 15

屠所

◇前田大辭彙明 18

屠所 (トシヨ) (市街内 (ヲチウチ) ノ)

◇尺字典明 17-22

(名) [佛] 屠場 (トシヨウ)

◇ Webster, N. (1885)

A public slaughter-house in a city.

Abba, n.

◇柴田・子安字彙明 15

父。長

◇前田大辭彙明 18

父 (チヤ)、長 (カシラ) (教門語)

Abbot, n.

◇柴田・子安字彙明 15

方丈。住持。長老

◇前田大辭彙明 18

僧職ノ名、住職、(寺院ノ長)

Abet, v.t.

◇柴田・子安字彙明 15

歡ムル。勵マス。扶クル。從憑スル

◇前田大辭彙明 18

歡 (ヌム) ル。勵 (ハクマ) ス。扶 (タケ) ル (惡事 (アシキト) ヲ)

◇尺字典明 17-22

助クル。勵マス。煽動スル。挑唆 (ヌムル) スル。犯罪ノ所爲ヲ助クル (法)。

◇ Webster, N. (1885)

To encourage by aid or countenance; - formerly used in a good, but now chiefly in a bad sense.

Alabaster, n.

◇柴田・子安字彙明 15

大理石。雪花石膏。白硫酸石灰。“阿拉罷斯登”

◇前田大辭彙明 18

雪花石膏 (セツカセキヨ) (石膏ノ變種)

◇尺字典明 17-22

大理石。白硫酸石灰。至硬石膏 [礦]。

◇ Webster, N. (1885)

(Min.) (a.) A compact variety of sulphate of lime, or gypsum, of fine texture, and usually white and semi-pellucid, but sometimes yellow, red, or gray. It is carved into vases, mantel ornaments, &c. (b.) A hard, compact variety of carbonate of lime, somewhat translucent, or of banded shades of color; stalagmite. This name is used in this sense by Pliny. This kind is sometimes distinguished as oriental alabaster.

Alderman, n.

◇柴田・子安字彙明 15

市長。司長

◇前田大辭彙明 18

市長 (トヨリ)、司長 (カシヤク) (市尹 (シイン) ノ下二位スルモノ)

◇尺字典明 17-22

府尹ノ次官。

◇ Webster, N. (1885)

A magistrate or officer of a city or town corporation, next in rank below the mayor: in some cases having authority to act as a civil magistrate or justice of the peace, and sometimes as a judge.

Absentee, n.

◇ 柴田・子安字彙明 15

出外者。不在ノ人。致仕者

◇ 前田大辭彙明 18

出外者 (タデ^レタルト)、不在ノ人、致仕者 (イキヨスルト) 領地 (モジ^レ) 外 (ヲ) 二住 (ス) スル地主 (モフヌ)

◇ 尺字典明 17-22

不在人。他出者。遠遊者。欠席者。所有地ト遠隔シタル地方ニ居住スル人。

◇ Webster, N. (1885)

One who absents himself from his country, office, post, or duty, and the like; especially a landholder who lives at a distance from his estate; as, an Irish absentee.

Amaranth, n.

◇ 柴田・子安字彙明 15

鷄冠花。雁來紅 (ハゲ^レイトウ)

◇ 前田大辭彙明 18

鷄冠花 (ケイトウクワ) 決 (ケツ) シテ衰弱 (カル) セサル花 (詩人 (ジ^ン) ノ語 (コトハ^レ))

◇ 尺字典明 17-22

「アマランス」草 [草冠に見] 科中ノ一属 [植]

◇ Webster, N. (1885)

(Bot.) A genus of ornamental annual plants (Amarantus) of many species, with green, purplish, or crimson flowers in large spiked clusters.

(Poet.) An imaginary flower that never fades or perishes.

Annats, n.

◇ 柴田・子安字彙明 15

僧官ノ年俸

◇ 前田大辭彙明 18

羅馬 (ロマ) 法王 (ハウワ) ニ納 (オ) ムベキ僧官 (リウクワ) 最初 (サイヨ) 一ヶ年 (イカサ) ノ年俸 (ネホ^リ) (後 (ノチ) 英國 (エイク) ニ於 (オ) テハ國王 (クワ) ニ納ム)

◇ 尺字典明 17-22

僧徒ノ俸税 (任職後一年間ノ利得ヲ法王若クハ國王ニ納ムル?) (英國宗門法)。

◇ Webster, N. (1885)

(Eng. Eccl. Law) The first year's whole profits of a spiritual preferment, anciently paid

by the clergy to the pope, but in the reign of Henry VIII. transferred to the crown; first fruits.

Anser, n.

◇柴田・子安字彙明 15

鵞

◇前田大辭彙明 18

一鳥部類 (イツウブル井) ノ名 (ナ) (鵞 (アヒル) 鴨 (カ) 等ヲ含 (ヲ) ム)

◇尺字典明 17-22

[見出し語なし]

◇ Webster, N. (1885)

A Linnaean order of natatorial birds swimming by means of webfeet, as the duck, or of lobe-feet, as the grebe. In this order are included the families Alcedidae, Anatidae, Colymbidae, Loridae, Pelicanidae, and Procellariidae.

Antalkali, n.

◇柴田・子安字彙明 15

[見出し語なし]

◇前田大辭彙明 18

アルカリリーヲ制 (セイ) スル薬 (クシ)

◇尺字典明 17-22

[見出し語なし]

◇ Webster, N. (1885)

(Med.) A remedy for the purpose of neutralizing alkali, or of counteracting and alkaline tendency in the system.

‘Amaranth, n.’に対する前田元敏の語義解説「決シテ衰弱セサル花(詩人ノ語)」(ルビ略)は、Webster 大辞典の「(Poet.) An imaginary flower that never fades or perishes.」を訳出して採用していることがわかる。単なる原語の訳出に止まらず、英学生にコトバの正確な輪郭を捉えさせようとする前田元敏の意図が見え、柴田・子安字彙との大きな違いとなっている。

前田大辞彙に見られるもう一つの特長は、動詞の活用形(過去分詞形・現在分詞形の形容詞相当語)を見出し語として多数採用している点である。動詞の現在分詞形や過去分詞形は、語幹の動詞を知っていれば文法知識によって意味を推測することが可能なので、紙幅の都合もあって、以前は一般的には辞書の見出し語としない場合が多かったという⁴⁸。例えば、‘surprise’は「驚かす、びっくりさせる」であるから、‘surprised’は「驚いた、びっくりした」「surprising’は「驚くべき」という意味であると比較的容易に推測

48 行方昭夫『英文の読み方』岩波書店、平成19年、p.52.

できる。しかし、‘swing’「揺れ動く、ぶらぶら揺れる」から‘swinging’「活気のある、時流に乗った」を推測するのは難しいように、動詞の活用形を別見出しとした方が初学生には親切である。現今の英和辞書では、このような方針でたくさんの動詞の活用形が見出し語となっている。以下にあげる語は、前田大辭彙明 19 には別見出し語として収録されているが、柴田・子安字彙明 15 には収録されていない動詞活用形見出し語を A 項からすべて拾い出したものである。

Absent-minded, a.
Absorbed, a.
Abstricted, a.
Accented, a.
Accrued, a.
Acetated, a.
Acquainted, a.
Aculeated, a.
Addorsed, a.
Adnubilated, a.
Adusted, a.
Affectionated, a.
Affriended, a.
Aforegoing, a.
Agglomerated, a.
Agreed, a.
Ague-struck, a.
Aidgiving, a.
Air-blown, a.
Air-braving, a.
Air-bred, a.
Airy-flying, a.
Allabandoned, a.
Allabhorred, a.
Allbearing, a.
Allbeholding, a.
Allbinding, a.
Arbored, a.
Armlate, Armillated, a.
Arseniureted, a.
Asweved, a.

Awlshaped, a.

表3に示したように、前田大辭彙明19のA項の見出し語総数は3,268である。ここに拾集した語数は32なので、動詞活用形の見出し語は、全体の約10%を占めていることになる。Webster大辞典が見出し語としていない語も多く含まれている。前田大辭彙が刊行された時代を考えると、学生の便を考えたこのような前田大辭彙の工夫は、英和辞書史において高く評価されるべきものと考ええる。

最後に、前田大辭彙のもう一つの特長をみる。前田は、以下の例が示すように、すべての対応語(訳語)に日本語(漢字)をあてようとせず、英語音に近い片仮名(傍線付)をあてる試みをしている。

Bailiwick, n.

◇柴田・子安字彙明15

縣官ノ管内。地方官ノ管内。縣。郡

◇前田『大辭彙』明治18年

ベアリツフノ管内(シイフ)

◇Webster, N. (1885)

(Law.) The precincts in which a bailiff has jurisdiction; the limits of a bailiff's authority.

Beancod, n.

◇柴田・子安字彙明15

漁船。釣船

◇前田『大辭彙』明治18年

ポーチユカル國ノ諸河(加)ニ使用(イコル)スル小舟(コ子)

◇Webster, N. (1885)

A small vessel used in the rivers of Portugal. It is sharp forward, having its stem bent above into a great curve.

Cadmium, n.

◇柴田・子安字彙明15

“嘉度密烏母”(白キ金属ノ名)

◇前田『大辭彙』明治18年

カトミアム

Celt, n.

◇柴田・子安字彙明15

南欧羅巴ノ土人。古代ノ石鑿

◇前田『大辭彙』明治18年

欧羅巴(イコハ)ノ土人(ドジン)ノ名、セルト人ノ石鑿(イシ)

Coke, n.

◇柴田・子安字彙明 15

半焼石炭。焦煤

◇前田『大辭彙』明治 18 年

コーク

Cyprian, n.

◇柴田・子安字彙明 15

[見出し語なし]

◇前田『大辭彙』明治 18 年

サイプラス島(トウ)ノ、淫亂(インラン)ノ

Julian, a.

◇柴田・子安字彙明 15

古曆ノ

◇前田『大辭彙』明治 18 年

ジュリアス、シーサーノ

Manganese, n.

◇柴田・子安字彙明 15

“満俺”(元素ノ名) Chloride of manganese. 格魯兒満俺 Fluoride of manganese. Oxide of manganese. 酸化満俺

◇前田『大辭彙』明治 18 年

マラ石(セキ)ノ

Murrhine, a.

◇柴田・子安字彙明 15

煉製器ノ名

◇前田『大辭彙』明治 18 年

マンガニーズ (金屬元素(キゾウカクシ)ノ名(ナ))

Nickel, n.

◇柴田・子安字彙明 15

“尼結兒”(金属ノ一種)

◇前田『大辭彙』明治 18 年

ニッケル

Ozone, n.

◇柴田・子安字彙明 15

“阿巽”。變形酸素

◇前田『大辭彙』明治 18 年

オゾン

このような片仮名表記は、外国の事物に関わる固有名詞や専門用語に多く見られる。現今では片仮名表記が一般的な訳語が多い。柴田・子安字彙の特徴の1つとして漢語訳語の多用がよく取り上げられるが⁴⁹、上例のように、例えば‘Nickel, n.’を「尼結兒」、‘Cadmium, n.’を「嘉度密烏母」などと、あえて漢字訳語をあてるのが果たして英学生の便となるであろうか。漢字は表意文字であることを考えれば、なお予期せぬ混乱をもたらすこともあり得る。前田のように、直線的に仮名で「ニッケル」と表記する方がむしろわかりやすい。

4. おわりに

本論の目的は、前田元敏の手になる『英和對譯大辭彙』を量・質の両面から検討して、同時代の他の辞書には見られない特長を明らかにすることであった。前田が手本としたと考えられてきた柴田・子安字彙などとの比較を通して、以下の6つの特長が明らかになった。前田大辭彙は、

- 1) 柴田・子安字彙とは見出し語に20%前後の差異があること
- 2) 数学・理化学に関する見出し語の追加と訳語解説の増補が多いこと
- 3) 例句・例文を多数採用していること
- 4) 訳語の後に補足的な解説を加えていること
- 5) 動詞分詞の形容詞相当語句を見出し語として多数採用していること
- 6) 英語音に近い片仮名表記を対応語として採用していること

である。これらの特長は、前田大辭彙が同時代の他の多くの辞書のように、単なる柴田・子安字彙の「ノリとハサミの抜き取り辞書」「偽装辞書」ではないことを示すものである。このような特長がありながら、これまで正当な評価を受けてこなかったのは誠に残念でならない。前田大辭彙は、前例主義に陥ること、そして、その道の権威が指摘することを盲信する権威主義に頼ることの危険性をあらためて教えてくれる。

英学史において、英和辞書は「単語帳」から本格的な「英和对訳辞書」へ、そして「英和对訳辞書」から訳語解説がより充実する「百科事典的辞書」へとその性格を徐々に変化させていく。特に他の辞書に見られない前田大辭彙の上記の3)と4)と5)の特長は、英和辞書が「英和对訳辞書」から「百科事典的辞書」へと変化する起点であったとも考えられる。もしこのことが正しければ、前田大辭彙は英語辞書史に新たな1ページを加えることになる。これを検証するには、さらなる調査が必要であることは言うまでもない。なぜなら、本論で触れてきたのは、前田大辭彙の主にも前半部のA部である。B部を含めた本格的な調査を通じた研究成果を待ちたい。

参考文献

- 荒木伊兵衛『日本英語学書志』大阪、創元社、昭和6年
- 郁文館学園九十年史編集委員会『郁文館学園九十年史』郁文館学園、昭和53年
- 泉淳『元親記』勉誠社、平成6年
- 岩崎克己（著作兼発行者）『柴田昌吉傳』一誠堂書店、昭和10年
- 江口俊博「回想談」『龍南會雜誌』第200号、大正15年12月25号、26-39.
- 大村喜吉・高梨健吉・出来成訓『英語教育事典・年表』英語教育史資料第5巻、東京法令出版、昭和55年
- 忍足欣四郎『英和辞典うらおもて』岩波書店、昭和57年
- 坂口久子「前田元敏（文學遺跡巡禮・外國文學篇第六十八回）」『学苑』昭和女子大学、第128号、昭和26年、45-55.
- 澤田武一「大垣尋常中学校」『麩城大垣青年會誌』明治27年、33-38.
- 惣郷正明『辞書風物誌』朝日新聞社、昭和48年
- 豊田実『日本英学史の研究』岩波書店、昭和14年
- 「東京開成学校入学試験合格者」『東京日日新聞』明治8（1875）年、9月22日
- 東京大学法理文学部『東京大学法理文学部一覽略』明治11年、明治13年
- 土佐女子高等学校編『高知共立学校資料集』学校法人土佐女子学園、平成4年
- 前田元敏著・村端五郎編『今昔日本人の視点』高知大学人文学部、平成20年
- 南出康世『英語の辞書と辞書学』大修館書店、平成10年
- 村端五郎「Apple - その『実』と『名称』をめぐって -」『国際社会文化研究』第7号、高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科、平成18年、105-128.
- 森岡健二『近代語の成立 - 明治期語彙編』明治書院、昭和44年
- 早川勇『ウェブスター辞書と英和辞典』中部日本教育文化会、平成10年
- 早川勇『日本の英語辞書と編纂者』愛知大学文學會叢書 XI、春風社、平成18年
- 行方昭夫『英文の読み方』岩波書店、平成19年
- 山本大『高知県の歴史』山川出版社、平成8年
- 藪田鶴代「英語教科書の変遷」藪田鶴代他『英文学の映像』光葉会、昭和15年、37-63.
- 若尾葎厓編「土佐国歌人名簿」高知県歴史辞典編集委員会編『高知県歴史辞典』、昭和55年、49-57.
- （辞書・教科書）
- 柴田昌吉・子安峻『附音挿図 英和字彙』日就社、明治6年
- 柴田昌吉・子安峻『増補訂正 英和字彙』日就社、第2版、明治15年
- 柴田昌吉・子安峻『増補訂正 英和字彙』日就社、第2版再版、明治20年
- 前田元敏『英和對譯大辭彙』大阪同志出版社、明治18年
- 前田元敏『訂正増補 英和對譯大辭彙』大阪同志出版社、第2版、明治19年

尺振八『明治英和字典』六合館藏版、明治 17-22 年

Webster, N. (1885). *An American Dictionary of the English Language by Noah Webster, Thoroughly Revised, and Greatly Enlarged and Improved, by Chauncey A. Goodrich and Noah Porter*, Published by G. & C. Merriam & Co.

Robinson, Horatio N. (1875). *New Elementary Algebra: Containing the Rudiments of the Science for Schools and Academies*. New York: American Book Company.

Davies, Charles (1858). *Elementary Algebra: Embracing the First Principles of the Science*. New York: A. S. Barnes & Co.